

オキシペラタム茎頂培養苗の順化方法



写真1 センター到着時の未発根苗

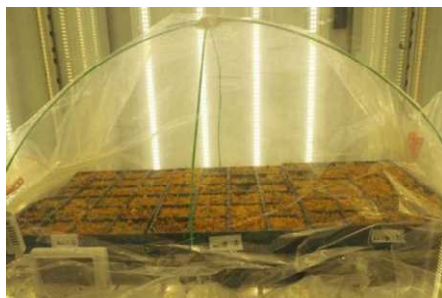


写真2 恒温恒湿器内での様子



写真3 鉢上げ時のプラントプラグ苗

表 順化用培地および茎頂培養苗の状態の違いが成苗率および苗の生育に及ぼす影響

順化用培地	苗の処理	発根度 ^{z)}	発根率 ^{y)} (%)	展開節数 (節)	草丈 (cm)	成苗率 ^{x)} (%)
鹿沼土細粒	カルス有り	54.2	58.3	2.4	2.7	58.3
	カルス無し1節	4.2	8.3	1.0	1.4	8.3
	カルス無し2節	37.5	41.7	1.0	1.6	33.3
プラントプラグ	カルス有り	87.5	100	2.6	4.7	100
	カルス無し1節	37.5	75.0	1.9	1.8	66.7
	カルス無し2節	54.2	91.7	2.4	4.2	91.7

z) 発根程度を次として算出。

鹿沼土細粒 0:無(全く発根なし)、1:少(僅かな発根~少)、2:中~多

プラントプラグ 0:無(全く発根なし)、1:少(横からわずかに発根が見える)、2:中~多(横から数本~多くの発根が見える) 発根度= {Σ(程度別発根株数×指数)/(調査株数×2)} × 100

y) 発根率=指数1以上の株数/調査株数×100

x) 成苗率は発根度の指数1以上、展開節数が1節以上確認できる苗の割合とした。



カルス有りの場合は
展開葉の調整は無し

カルス無し2節の場合は
カルスとここで切除

カルス無し1節の場合は
カルスとここで切除

写真4 苗の処理の様子

(写真は移植して2週間頃の様子)

高知県のオキシペタラムは全国一の生産量であり、芸西村や須崎市で栽培されています。茎頂培養苗は、形質の揃った優良な品種を短期間に大量に増殖できることから、産地から期待されています。しかし、培養方法や苗の順化方法が確立されていないことから、茎頂培養苗の利用は行われていません。

そこで、海外から輸入した未発根の茎頂培養苗(‘エンジェルホワイト’)を用い順化方法について検討しました(写真1)。

順化用の培地としては鹿沼土細粒、プラントプラグ(固化培土)を使用しました。苗は各培地に、①カルス有り、②カルス無し1節、③カルス無し2節のものを移植し、温

度20℃、湿度90%、12時間日長(500Lx)に設定した恒温恒湿器(写真2)で29日間順化した後、ガラス温室で19日間育苗しました(写真3)。

この結果、プラントプラグ培地にカルス有りの苗を移植することで成苗率が高くなることが明らかとなりました(表)。

今後は茎頂培養苗(写真4)を利用したオキシペタラムの開花特性や収量性について調査します。

(花き担当 吉良 智絵 088-863-4918)